

三池炭鉱炭じん爆発50年展

むかし炭鉱、いま原発

かつてエネルギー資源として近代化を支え、明治以来の国策であった富国強兵の「富国」を担ってきた石炭。

三井三池炭鉱(福岡県大牟田市)は国内最大の出炭量を誇っていたが、1960年代以降、資源としての地位を石油や天然ガスに取って代わられ、1997年3月30日に閉山した。

炭鉱内の労働は常に落盤や出水、爆発などの危険と隣り合わせで、開坑(1853年・三池藩)以来、事故は頻発していた。

1963年11月9日、「三井鉱山三池鉱業所三川鉱爆発」。

458人の犠牲者と839人の一酸化炭素中毒患者を出した戦後最大の炭鉱事故がおきた。患者と家族の苦しみは今なお続いている…。

2013年

11月9日(土)~16日(土)

10時~18時(15日のみ20時まで/11日は休館日)

※会期終了後も予約していただければ、11月29日(金)まで観覧可能です。
日時については2日前までに、エル・ライブラリーへお問い合わせください。

エル・ライブラリー(大阪産業労働資料館)

大阪市中央区北浜東3-14 エル・おおさか4階

Tel. 06-6947-7722(裏面に地図)

会期中は資料展示の他に、
CO映画「三池からの報告」等、関連フィルムを上映

(お問い合わせ)

エル・ライブラリー Tel. 06-6947-7722

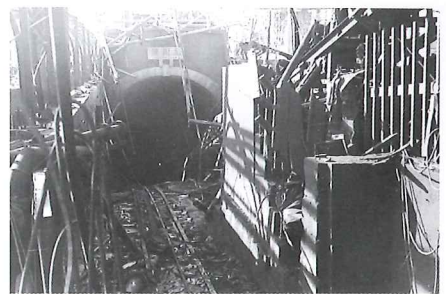
前川 090-2389-7686 Tel. 0749-23-1028

E-mail: maekawa@hasiru.net

入館無料



三池 CO 患者・宮嶋重信さん（享年 33）。助かった者も、その多くが CO 中毒患者となつて、悲惨な生活を強いられた。



爆発直後の三川鉱坑口
（写真提供：元・労働大学事務局 佐藤さん）



次々と運び出される遺体

「三池の黒い煙」と「フクシマの白い煙」が問いかけるもの

1963年11月9日に起きた三井鉱山三池鉱業所三川鉱（福岡県大牟田市）の炭塵大爆発から今年で50年の節目を迎えます。社会は豊かになり発展したと言われるますが、働く者の雇用と安全、そして生活は守られてきたのか、当時と比べ現在はよくなったのか。自身、派遣労働者として7年間働いてきて、いま自問することでもあります。

折しも2年前の2011年3月11日、東日本大震災による地震・津波の被害を受けた福島第一原発が爆発事故を起こしたことにより、原子力発電所の安全が、単に「神話」でしかなかったことが暴露された形になってしまいました。テレビニュースで見た福島第一原子力発電所爆発の際の白い煙は、50年前の三川鉱炭塵大爆発の際の黒い煙となんら変わっていないのではないか、と。

炭塵爆発で、かろうじて助かりながらも、CO（一酸化炭素）ガスで被災した炭鉱労働者に、会社や国は「さほどの影響はない」という言葉を繰り返しました。それだけでなく、その後も容態がいつかよくなる患者に対して、会社や国は、補償ほしさの「詐病」とまで言い出す始末でした。いまだに80数人のCO患者（福岡労基監督局把握）がいるにもかかわらず、です。

それと同じようなことが今また福島第一原子力発電所事故で繰り返されているのではないかと。「直ちに影響はない」—そう繰り返された政府発表に、逃げ遅れた多くの住民が放射能汚染にさらされることになりました。その後の補償もいまだ充分になされていません。そればかりか行政は、除染が充分でない地域に帰還させる政策を取り、これに応える住民と反対する住民とが分断している有様です。かつての炭鉱町においても、住民が分断、いがみあった歴史がありました。このように行政による分断政策が今昔繰り返されている現実。

悲惨なのは住民ばかりではない。原発で働く労働者もまたしかり、なのです。放射線被ばくで危険だとわかっているにもかかわらず、そこで働かざるを得ない派遣労働者たち。そこには炭鉱から流れて行った人たちもいる。そのことは、働く者の雇用と生活がいまだ十分に保障されていないことの裏返しではないのか。「危険を承知で来るのだから、少々の被ばくぐらいで文句を言うな」。自己責任として労働者に何もかも押し付ける労務政策。それが今の雇用と安全の実態ではないのか。何も社会はよくなっていない。

石炭と核エネルギーの違いはあっても、どちらも独占資本と国が犯した罪は大きく、三池は会社責任があいまいにされ、そして再び、電力会社の責任もあいまいにされようとしていること。そのためにも、50年前九州の片隅で起きた三池炭鉱大爆発事故の出来事を伝えなければならないと思うのです。



戦後最大の炭鉱事故をとらえた写真と、撮影者の植埜吉生さんが愛用していたカメラ（キャンネットQL）。

エル・ライブラリー （大阪産業労働資料館）

大阪市中央区北浜東 3-14
エル・おおさか（府立労働センター）4階
Tel. 06-6947-7722



- ・京阪・地下鉄谷町線「天満橋駅」より西へ300m
- ・京阪・地下鉄堺筋線「北浜駅」より東へ500m
- ・地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」より東へ1,200m
- ・JR 東西線「大阪天満宮駅」より南へ850m